



THEY'S MEN'S CLUB OF FUJI-GOKO

創 立 2003年3月12日 3041-1, UCHINO, OSHINO-MURA,
MINAMITSURU-GUN, YAMANASHI-KEN,

チャーターナイト 2003年5月10日 PHONE 0555-84-4233

2022年 富士五湖クラブ 3月ブリティン 第209号

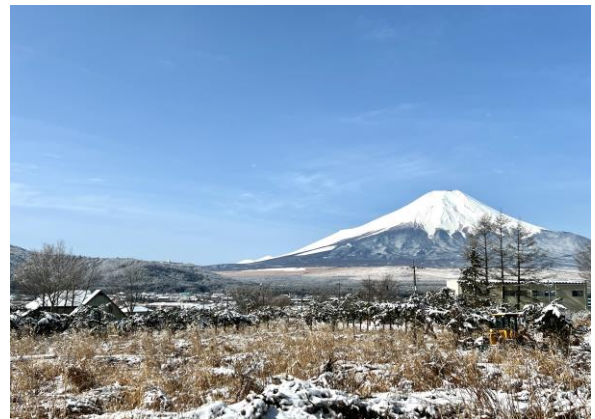
会長 原 俊彦
副会長 望月 勉
副会長 後藤明久
書記 後藤昭子
会計 望月喜代子
会計 武藤五子
直前会長 後藤昭子

国際会長：キムサンチュ(韓国)
「世界と共にワイズメン」
アジア太平洋地域会長：大野 勉(神戸ポート)
「100年を超えて変革しよう」
東日本区理事：大久保知宏
「私たちは次世代のために何ができるか？」
あずさ部長：長谷川あや子
「道を拓く～愛と協力によって」

富士五湖クラブ会長：原 俊彦
『何があっても元気で楽しく！！』

3月第1例会

2022年3月11日(金) 19時～Zoom
於;ふれあいセンター(ハイブリッド)
会長開会あいさつ 原 俊彦会長
議事
その他
会長閉会あいさつ 原 俊彦会長



3月 忍野富士

2月のデータ

会員数 11名
例会出席 9名

出席率 82%

今月のハッピーバースデー

メン 原 俊彦さん(3月21日)
メネット 武藤敏彦さん(3月24日)

今月のアニバーサリー

☆ 三浦洋美&正夫夫妻 (3月17日)
☆ 望月 勉&喜代子夫妻 (3月28日)
おめでとうございます!

あずさ部第2回SDGs評議会

会 長 原俊彦

2月12日（土）13～16時まで第一回同様、今回もzoomによる評議会が開催されました。

ホストクラブは東京武蔵野クラブ、昨年暮れまで感染者も限りなくゼロに近かった事もあり、久しぶりにお互い顔を会わせて交流が図れる評議会になる筈でした。ところがオミクロンと言う得体の知れない新株の所為で、結局今回も残念ながらzoom開催とならざるを得ませんでした。出席者は50名ほどでした。長谷川あずさ部長の開会点鐘、歓迎の挨拶に続いて久保田書記司会の下、議案の審議に入りました。

第1号議案は、あずさ部次期役員に関する件で、次期あずさ部長となる後藤明久ワイズよりクラブ会長および部役員メンバーが発表され、承認されました。

2022-2023 年度あずさ部部役員

部 長	後藤 明久	富士五湖
次期部長	森本 俊子	長野
直前部長	長谷川 あや子	東京八王子
書 記	後藤 昭子	富士五湖
会 計	原 淑子	富士五湖
CS・Yサ	板村 哲也	東京武蔵野多摩
EMC	市川 将樹	甲府 21
国際交流	ピーターマウントフォード	甲府
ユース	小口 多津子	東京八王子
メネット	連絡員 標 恭子	甲府
部会実行	委員長 原 俊彦	富士五湖
甲府クラブ	会長 田中 克男	
東京西クラブ	会長 高嶋 美知子	
東京武蔵野	多摩クラブ会長 中村 吉孝	

松本クラブ会長 大和田 浩二
東京サンライズクラブ会長 菰渕 光彦
甲府 21 クラブ会長 廣瀬 健
東京八王子クラブ会長 花輪 宗命
東京たんぽぽ 会長 服部 節子
富士五湖クラブ会長 望月 勉
長野クラブ会長 森本 俊子
監事 藤江 喜美子 東京たんぽぽ
部選出代議員 長谷川 あや子 東京八王子
クラブ 部エクステンション委員長 菰渕
光彦 東京サンライズクラブ
第2号議案は次々期あずさ部長として、
長野クラブの森本ワイズが推薦され承認
されました。



第3号議案は富士五湖クラブから申請されていたCS/Yサ事業への助成金7万円松本クラブアジア賞授賞式へ5万円に関する案件でしたが、これも原案通り無事承認されました。

議案審議のあとは、部長、主査報告に続いて会長報告がありました。富士五湖クラブの会長として前期の活動を報告しましたが、他のクラブと比べてコロナ禍でありながら比較的予定通りの行事やイベントを実施出来たと感じました。

休憩後、かつてYMCAの職員だった上條直美さんから「持続可能な社会に向かって歩む～身近なところからSDGsを」と題して、クイズ形式を交えながら全員参加

の肩の凝らない楽しい講演会がありました。



次回評議会は長野、たまには遠出して旅気分を味わい、あずさ部の皆さんとも直接お会いして久しぶりにゆっくり話がしたいですね。

2022年2月第2例会報告

2022年2月25日(金)19時～

於；ふれあいセンター&zoom

参加者：原 2、望月 2、後藤 2

Zoom：須藤、三浦、武藤、福田

原会長のあいさつの後、議事に入りました。

・原会長より第2回評議会の報告がありました。

・3/5の役員研修会はzoom開催になりました。出席者は望月、原 2、後藤 2
役員研修会の中で原会長がJEFについてアピールする

・4/23の第11回障がい者フライングデスク大会について
今の状況で行けば万全な感染対策をしていけばできる。

早めにワイズやボランティアに周知する。競技内容がアキュラシーとデイスタンスとあるが内容については三浦メンに一任
・4/23は山梨YMCA総主事交代式と日程が重なってしまったが協会の審判団との都合もあるので富士五湖クラブとしてはフライングデスク大会を開催する。



- ・クラブ次期役員について
会 長 望月 勉
副会長 小池亦彦・原 俊彦
書 記 後藤昭子
会 計 武藤五子・望月喜代子

・次期あずさ部予算について
コロナ禍で厳しいので減額してほしいと言われている。→減額するかどうかは前年度の会計に聞いてから予算を組む。
5月の第3回評議会には提出する。



不老園の梅

第4回ワイズナイトフォーラム

会長 原俊彦

東日本区・change！2022推進委員会主催の第4回ワイズナイトフォーラムが、2月26日（土）午後8時から10時までの2時間にわたってzoom形式で開催されました。

第一部で東日本区国際交流事業主任の山田公平さんが講演しましたが、特に感銘を受けたのはユースに活躍の場を提供する「ユースアクション」プロジェクトで、既に18にも及ぶ様々な企画が寄せられていて、3月6日（日）13時から各グループによるプレゼンテーションがzoomにより実施されるとの事・・・具体的にそこまで企画が進んでいる事に正直ビックリしました。当日は是非zoomで参加し、ユースの皆さんの問題意識やプログラムの進め方などに焦点を絞って試聴したいと思っています。



第二部はあずさ部に所属する5つのクラブが行っているCS活動を紹介するコーナーで、甲府、甲府21、東京サンライズ、東京八王子、そして最後に富士五湖クラブを代表して障がい者フライングディスク大会を写真を使って説明させて頂きました。説



明の中で私が最も強調したのは、この大会は障がい者施設の職員の方々はもちろん、山梨県障がい者フライング協会の審判団の方々、富士吉田市役所そして東日本区理事、あずさ部長をはじめ多くのワイズの方々など多くの方々のサポート無しには10年間もの長きに亘って続ける事は出来なかったと言う点です。そして富士五湖クラブは、これからも障がい者の皆さんに寄り添いながらこの大会を可能な限り続けて行きますと締めくくりプレゼンテーションを締め括りました。

これからの予定

3月11日(金)	3月第1例会	19時	ふれあいセンター(ハイブリッド)
3月25日(金)	3月第2例会	19時	ふれあいセンター(ハイブリッド)
4月8日(金)	4月第1例会	19時	ふれあいセンター(ハイブリッド)
4月22日(金)	4月第2例会	19時	ふれあいセンター(ハイブリッド)

《山梨 YMCA だより》

“VISION2030”

山梨 YMCA 総主事 露木 淳司

いよいよ YMCA だよりの担当も今回で最後になります。改めまして皆様、未熟者の私を長い間ご指導いただきありがとうございます。心より感謝申し上げます。実は私にはやり残していることがいくつかあります。そこで、次期総主事の中田純子と共に、この後の山梨 YMCA の事業を引き続き担っていただくスタッフとサポートしていただけるワイズの皆様のために、“VISION2030”と称する将来構想を四項目にまとめましたのでご紹介申し上げます。差し詰め“四つのお願い”とでも申しましょうか。

まず一つ目は、2020年に皆様の募金によって竣工した新会館、グローバル・コミュニティ・センターにおける地域共生社会創生に向けての事業の完成です。障がいのあるなしに関わらず、0才から100才までのすべての人々が、一つ屋根の下で共に居場所づくりをする。この願いを成就するために、野の花保育園とオリーブの木、ぽかぽか・きらきら教室、そして英語学童キッズ・パラダイスの利用者を確実に集め、軌道に乗せること。さらには中高生から大学生を対象とするユース・リーダーの活動を活性化させ、各事業と相互に交流する日常を確立することが求められます。

そして二つ目はトータル・チャイルドケア・システムの構築です。乳幼児期から学童期、青年期、そして就労支援に至るまで、一人ひとりの子どもたちの生涯にわたって伴走していける仕組みを作ります。現在の

甲府市、中央市から、山梨県各地にそのための拠点や連携してくれる施設を徐々に拡げ、県民が等しくサービスが受けられるネットワークを創ることを目指します。

三つめはSDGsを念頭に明日の指導者を育成する野外環境教育施設の取得です。下草刈りや農作業、ツリーハウスや冒険施設づくりなど、ワークキャンプによる設備の拡充を実現し、自然体験、生活体験、社会体験の三つの体験学習を可能にします。児童青少年やユースリーダーの心のふるさととなるキャンプ場を目指します。

最後となる四つ目は、ぶどうの木、オリーブの木を立ち上げた小野興子氏の構想、ケアコミュニティづくりの実現です。地域共生とも関連しますが、高齢者を孤立させない、人生の最後を家庭で安心して過ごせる環境づくりのために、関連する地域の諸団体、施設と連携し、ケアし合えるコミュニティづくりを目指します。そしてさらに利用者の家族、子孫がYMCAにつながっていきます。

この四つの構想を2030年までに実現させたいと願うのがVISION2030です。ぜひ、皆様も共にこの山梨YMCAの目指すゴールを見据えて、知恵と力をお貸しいただけませんか？

